

多文化パワーを活かした まちなか活性化 ヨコポゾウム

参加費
無料

@浜松市地域情報センター
1Fホール

2/22 (SAT)

13:30~16:30

講演Ⅰ 人口減少時代の多文化パワーの可能性

[13:40~14:20]

講演者 毛受敏浩氏 <日本国際交流センター執行理事>

講演Ⅱ 多文化共生社会の新局面 —地域から始まる新たな動き—

[14:25~15:05]

講演者 池上重弘氏 <静岡文化芸術大学教授>

パネルディスカッション —多文化パワーを活かして—

[15:10~16:10]

コーディネーター 西原鈴子氏 <国際交流基金日本語国際センター所長>

パネリスト 田近ヨアンナ氏 <ポーランド出身>

飯野ホラン氏 <モンゴル出身>

長田治義氏 <浜松市市民協働センター長>

登壇者紹介



毛受敏浩

公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事

慶応大学法学部卒。米国エバグリーン州立大学大学院行政管理修士号を取得。兵庫県庁で10年間の勤務の後、1988年より公益財団法人日本国際交流センターに勤務。慶応大学等で非常勤講師を歴任。現在、東京都地域国際化推進検討委員会委員長、新宿区多文化共生まちづくり会議会長、自治体国際交流・総務大臣表彰選考委員等を務める。2005年、第一回国際交流・協力実践者全国会議委員長。著書に『人口激減—移民は日本に必要である』等がある。



池上重弘

静岡文化芸術大学 教授

北海道大学大学院文学研究科修了。同大助手、静岡県立大短大部専任講師、静岡文化芸術大学助教授を経て、2008年より現職。外国人集住都市会議アドバイザー、浜松市外国人子ども支援協議会会長、磐田市多文化共生社会推進協議会会長等。日本社会の多文化・多民族化に伴う地域の問題を実証的に研究。主著に『ブラジル人と国際化する地域社会—居住・教育・医療—』（編著、明石書店）、『国際化する日本社会』（共著、東京大学出版会）。



西原鈴子

国際交流基金日本語国際センター所長

米国、インドネシア、オーストラリアで日本語教育実践をした後、国立国語研究所、東京女子大学勤務を経て、2012年4月より現職。その間、2008年より2013年にかけて、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会において「生活者としての外国人に対する日本語教育」のカリキュラム案、教材例、能力評価、指導力評価などの検討に従事した。現在は、日本語を母語としない海外日本語教師を招聘して研修を行う機関に所属している。



田近ヨアンナ

ポーランドのワルシャワ出身。子どものころからピアニストとして活躍。フレデリックショパン国立総合音楽大学を卒業後、ワルシャワ大学の経営学部に編入し、MBAを取得。2005年からフレデリックショパン協会、ショパン国際ピアノコンクールの事務局を経て、ポーランド文化庁で様々な文化振興事業の企画運営を担当し、2008年からは政府機関であるアダムミツキエヴィッチ研究所にてヨーロッパ文化振興プロジェクトのポーランド代表を務める。EU圏の文化交流を推進する人材の育成に従事。ヨーロッパ赴任中の日本人と結婚、2013年来日。浜松国際ピアノコンクールのボランティアや浜松市文化振興財団のイベントサポーターズで活躍。



飯野ホラン

モンゴルのウランバートル出身。海外在住歴は20年近くになる。ロシア、韓国、アメリカ、インドネシア、シンガポール、日本などに住んだ事があり、文化や言葉の勉強をし、現在 英語、インドネシア語、モンゴル語を教えている。

2010年に日本語能力試験 N1を取得。これから益々グローバルになっていく世界において、日本の子供たちとみんながいろいろな文化を体験し、興味を持ち、理解する事に役に足りたいと考えている。



長田治義

浜松市民協働センター長

藤枝市出身。浜松市南区河輪町在住。昭和52年浜松市役所入庁、仕事の傍ら社会貢献活動に参画し、平成14年NPO法人魅惑的倶楽部の副理事長に就任。平成21年浜松市役所を退職し、平成22年4月より現職。静岡県人権会議委員、浜松市手をつなぐ育成会主催青少年福祉ボランティア講座講師、一般社団法人静岡県出版文化会登録講師、平成24年度からは菊川市市民協働アドバイザーに就任するなど、市民による社会貢献活動の促進に向け、県内外で活躍している。

日時 平成26年2月22日(土) 13:30~16:30

場所 浜松市地域情報センター1Fホール

参加費 無料

対象 多文化共生に興味のある方など

定員 100人(先着順)

申し込み方法

名前、住所、電話番号、メールアドレスを記入のうえ
info@globaljinzai.or.jpへお申し込み下さい。

問合せ：一般社団法人グローバル人財サポート浜松

TEL:053-482-8451

FAX:053-482-8452

